

# 言の寝の狸の豆

前副会長 故・三原幸二

その犬を、私は帰宅途中、中央環状線の分離帯のところで見た。はじめは気がつかなかったが、どうもその辺りに住みついているらしい。二ヶ月たったころ、その分離帯の茂みのなかを住かにしているのを目撃した。

その後、ひと月ほど前、反対側の車線を走っているとき、植え込みの中に看板が立っているのに気が付いた。

『この犬は、保護活動中。心配後無用です』と書いてある。

私と同じように、この犬の存在に気付き、気になっていたひとが何人もいたのだろう。少しホッとした。

その看板はまことに立派なもので、字もていねいに書かれてあり、あちらこちらでよく見かける役所の看板のようでもある。どこのどなたが立てたのか、また世話をされているのかは知らないが、心やさしい人がいることになんとも言えないうれしい気持ちになった。

こんな世知辛い世の中に、犬一匹に思いやりをかける人が少なくないということ。この世の中は、まだまだ捨てたものではないな、と思う次第です。師走が近づく晩秋に、人のやさしさを知りました。

このごろは、犬の姿を見かけない。でも看板が立っているところを見ると、今も元気になっているのだろう。通勤途中の、ちよつと心を洗われた出来事です。

……「心配ご無用」二〇〇一年執筆

